

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

スポーツ新聞や週刊誌しか読まない人間は経営者にしない 丹羽 宇一郎 (伊藤忠商事会長)

1. 本を読むということは、経営者にとってきわめて重要なことだと思います。もっと言えば、スポーツ新聞や週刊誌しか読まない人間を経営者にしてはいけません。経営はきわめて論理的なものだから、感性だけで出来るものではありません。自分のなかに拠り所となる太い幹を作ろうと思うなら、たえず考えながら本を読まなければならない。
2. これを 20 年ぐらい続けていると、歴然とした差が出てきます。努力をしなければできないが、逆に本というのは、他者の経験や体系化された考えを文字を追うだけで会得できるわけで、これほど楽なことはありません。
3. 私は 10 年程前までは年間 150 冊ぐらい本を読んでいました。今は 50~60 冊ぐらいでしょうか。雑誌や小説は冊数には入れません。癒しのために読むものは、幹ではなく草なんです。だから時間が惜しくて仕方がない。電車の中だけでなく、夜はいくら酒を飲んでも、30 分は本を読んで寝ます。顔を洗わないと起きた気がしない、と同様に読書が生活の一部にならないと、本物ではありません。

(参考:「文藝春秋」2007 年 4 月特別号)

経営者のための理念・哲学

再び危険な金やモノを追い求める風潮

奥田 碩 (トヨタ相談役)

1. リーダーたるもの、倫理にもとること、不道德なことはやってはならない。「金さえあれば何でもできる」などということを書いては、尊敬されないばかりか、ビジネス自体も長続きしません。20 世紀の日本は、物質文明が繁栄して、豊かさといえば物の豊かさを指していました。しかし、この物質文明の進展は、人と人とのつながりを希薄化させ、あるいは倫理観の欠如といった心の荒廃をもたらしました。
2. そして、最近景気が良くなる中で、日本人がバブルの反省を忘れて、再び金やモノばかりを追い求めているように思います。自分さえ良ければいい、金がもうかればいい、勝ちさえすればいい、こういう風潮がはびこっています。個人的に、そのことを大いに懸念しています。

(参考:「日経ベンチャー」: 2007 年 2 月号)

経営者のための経済学

脅威的な伸びを示す九州経済圏 (対中国貿易)

1. 地方の「独立」が徐々にはじまっています。門司税関が毎月発表している貿易統計によると、九州経済圏 (九州 7 県と山口・沖縄の両県) の 2006 年 10 月の輸出は速報ベースで 6446 億円。前年同月比 16.1%増で、単月としては過去最高となりました。中でも注目すべきは中国向けで、1060 億円と初めて 1000 億円を突破しただけでなく、前年同月比で 53.9%も伸びています。
2. 九州一円で急速な東アジアの結びつきと、それによる成長は、東京依存からの脱却と新たな地政学的経済圏の勃興を予感させます。日本が東京一極集中から多軸の「連邦型経済国家」に生まれ変わるには、各地域、都市が地政学的、地理的な立ち位置と機能的立ち位置の両方をしっかり、自覚しなければなりません。東京と連携を強めるのもよし、離れるのもよし。東京と地方、生き残りを賭けた「それぞれの独立戦争」の始まりです。

(参考:「日経ビジネス」2007 年 1 月 8 日号)

古典に学ぶ

心の奥底に針を打て

「吾方に事を処せんとす。必ず先ず心下に於いて自ら数鍼を下し、然る後事に従う」

(訳) 私はことに当ろうとする際は、まず痛むところに針を刺して鎮静させるように、心の奥底に数本の針を打って肝を据えてよく考えてから仕事にとりかかる」

(参考:佐藤一斎「言志四録」: PHP 文庫)

